

シンポジウム

島と大陸のコリアン

サハリン・中央アジア・日本のディアスポラ

日時 2026年7月4日（土） 13時－16時（予定）

会場 大阪公立大学 森之宮キャンパス 11階 1138教室・1137教室

報告

天野尚樹（上智大学）

「サハリン朝鮮人ディアスポラ：ユリア・ディンの仕事をめぐって」

原佑介（金沢大学）

「植民地を遠く離れても——李恢成「証人のいない光景」が描いた「同化少年」の未完の解放」

宋恵媛（大阪公立大学）

「サハリンから中央アジアへ：李恢成『流域へ』再読」

斎藤弘美（日本サハリン協会会長）

日本サハリン協会のふたりから「サハリンスキーコリアンの生活」

金サジ（写真家）

日本サハリン協会のふたりから「喪失したもの同士たちによるケア」

主催：大阪公立大学大学院文学研究科文化構想学専攻アジア文化学専修

共催：科研費（基盤B）「戦争及び戦争捕虜の記憶の表象と伝承：文学・歴史とミュージアムの実践」

科研費（基盤C）「ディアスポラ文化とジェンダー：在日朝鮮人とカザフ高麗人のライティングと舞台芸術」

帝国主義の時代、日本の植民地支配下で旧樺太へと渡り、戦後は故郷への帰還を阻まれたサハリン朝鮮人。その離散と定着の歴史は、世界に広がるコリアン・ディアスポラのなかでも固有の重みをもっています。本シンポジウムはこの歴史を中心に据えながら、中央アジア・日本へと視野を広げ、ディアスポラの経験を多層的に照らし出します。歴史学・文学・芸術の視点を横断しながら、現代のグローバルな人口移動や記憶の継承をめぐる問いとともに考える場を目指します。